

フランス婚といわれる事実婚が注目されています。在仏日本大使館は、このフランスのパックス(連帯市民協約)という制度を、『性別に関係なく、成年に達した二人の個人の間で、安定した持続的共同生活を営むために交わされる』と説明しています。1999年の法制化で別姓のまま法的婚姻と同等の権利が認められ、2007年にはパックスが10万件を超え、フランスの少子化傾向を食い止めているといわれています。

スウェーデンでは1988年に、事実婚を認めるサムボ法が施行されています。婚姻法と同様、家事育児を分担し家計の支出を負担しあい、解消時には住居と家財を分割して、未成年の子と同居するほうが同じ住居に住み続けるという決まりです。2009年4月には同性間の結婚を承認する新婚姻法が国会で可決されました。

欧米諸国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダでも事実婚が法制化され、結婚の「制度」よりも「個人の生活」を守ることに重きをおく時代がきているようです。(瀬上)

結婚に何を求めますか？

結婚していない理由のなかで一番多いのが「適当な相手にめぐりあえない」だといわれます。平均初婚年齢が夫30.2歳、妻28.5歳(2008年厚生労働省人口動態統計調査)、晩婚化が進んでいます。結婚って何なのかを見つめ直してみませんか。

～あなたにとっての結婚とは？～



- *自分の家族をつくる
- *好きな人と一緒にいられる
- *忍耐のはじまり
- *安心な性生活のため
- *親から離れていく
- *幸せになる
- *一生の友達になる
- *後継ぎがほしい
- *対等な関係を築く
- *老後のため



- *ひとつを選んですべてを諦めること
- *人生勉強
- *世間体を保つため
- *子どもができたから
- *すべて受け止めてくれる人を見つけた
- *自分らしくいられる場所をつくること

- *自分以外のものを愛せる
- *生活力をつける
- *親より長く暮らすことになる人をつくる
- *尊敬できる、信頼できる関係を築く
- *守るものをつくる
- *自分が守られる場所をつくる
- *してもしなくても後悔すること



「コンカツ(婚活)」ということばが最近マスコミを賑わせています。就職活動のように、結婚をするために自分から活動するコンカツ。かつては身近にいる世話人の紹介で、お見合い結婚する場合や、あるいは職場で出会って結婚するケースが多く見られました。1960年代後半まではお見合い結婚の割合が多く、1970年代以降、恋愛結婚が逆転し、今や9割弱が恋愛結婚の時代になってきました。多様な価値観が認められる社会になり、結婚後の生活で求めるものが、今までのように夫婦ともに似通ったものではなく、個人差がでてきました。結婚するために「婚活」が必要になってきたのは、時代の流れかもしれません。

全国の男女(平成14年10月末時点20歳から34歳)を対象に、厚生労働省は、平成14年を初年に21世紀成年縦断調査(国民の生活に関する継続調査)を継続して行い、結婚、出産、就業などの実態や意識の経年変化を観察し基礎資料としています。

平成21年3月に発表された第6回21世紀成年者縦断調査の「夫の休日の家事・育児時間別にみたこの5年間の出生の状況」(表1)では、子どもがいる夫婦の場合、夫が休日に家事・育児に費やす時間が長くなるほど、第2子以降の生まれる割合が高くなる傾向にあります。夫は仕事、妻は家事・育児という性別役割分担の図式ではなく、お互いに協力し合い、対等な関係を築いていくことが大切です。

仕事と家庭のバランスを考え、自分はどのような結婚生活を望むのか、パートナーとよく話し合い、お互いが納得できることが、「婚活」の中身となるのではないのでしょうか。

(表1) 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの5年間の出生の状況 (単位：%)

		総数	出生あり	出生なし
夫の休日の家事・育児時間	総数	(100)	100.0	37.5 62.5
	家事・育児時間なし	(7.9)	100.0	33.7 66.3
	2時間未満	(27.5)	100.0	34.1 65.9
	2～4時間未満	(20.3)	100.0	34.1 65.9
	4～6時間未満	(14.7)	100.0	38.7 61.3
	6～8時間未満	(6.6)	100.0	37.5 62.5
	8時間以上	(19.5)	100.0	46.5 53.5

厚生労働省 第6回21世紀成年者縦断調査(国民の生活に関する継続調査) 平成21年3月

結婚について 芦屋のひとはどう思ってる？

- ① 人間の幸福は結婚にあるから結婚した方がよい
「そう思わない」(39.8%) > 「そう思う」(31.1%)
- ② 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい
「そう思う」(63.5%) > 「そう思わない」(23.2%)
- ③ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい
「そう思う」(39.1%) > 「そう思わない」(30.9%)
- ④ 家事、子育て、仕事など生活全般を一人で担うのは大変なので、子どもがいる場合は離婚しない方がよい
「そう思う」(33.5%) > 「そう思わない」(32.6%)
- ⑤ 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である
「そう思う」(58.7%) > 「そう思わない」(20.9%)
- ⑥ 結婚している夫婦が別々の姓を名乗っても構わない
「そう思う」(47.0%) > 「そう思わない」(34.0%)
- ⑦ 結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事・育児への負担感・拘束感が大きいからである
「そう思う」(38.2%) > 「そう思わない」(37.4%)

「芦屋市男女共同参画に関する市民意識調査」平成19年9月より